第2回 川上村小学校統合研究委員会 議事録要旨

令和2年5月14日(木) 15:00~川上村中央公民館 大会議室

委員：村議会社会文教委員 中嶋知明・林公上・大西たま子、行政連絡員 林欽一・藤原克朗・井出俊司郎・中島剛志・吉澤喜雄、児童委員 油井博友・鷹野智里、教育委員教育長職務代理 由井正司、教育委員 油井たまき、第一小学校校長 神田博幸、第二小学校校長 佐々木 哲也、中学校校長 小林俊男、川上第一小学校PTA会長 油井拓也、川上第二小学校PTA会長 川上秀実、若妻会長 林紗央里、地域連携コーディネーター 井出和夫、長野県公営企業管理者 小林透

理事者：村長 由井明彦、副村長 中島修、教育長 小林昌夫

事務局：中嶋昌哉、宮田雅和、藤原将武、藤原英紀、若月彰一、中島啓隆

欠：村議会社会文教委員 由井元成、行政連絡員 小林淳・林博康・遠藤申太郎、児童委員 油井いずみ、教育委員 古原栄夫、保育園保護者会長 林一幸

1. 開会

2. 委員長あいさつ

- ・学校再開の予定について
- ・今回の議題について（委員会としての建設予定地の確定）等

3. 村長あいさつ

- ・学校再開の予定について
- ・新型コロナウイルスの状況について
- ・小学校統合、小中一貫教育の推進等について

○副村長挨拶、委員の紹介等

4. 議事（進行は委員会）

委員長：それでは議事に入ります。まず(1)から(4)を事務局から説明します。

事務局藤原将：(1)から(4)まで説明。

(1)小学校統合決定までの経過について

- ① 平成30年11月 学校あり方検討委員会の設置（住民懇談会、アンケートの実施）
- ② 平成31年4月 村へ意見書の提出（※資料1-2）
- ③ 令和元年6月 村の統合に向けての方針の策定（※資料1-3）
- ④ 令和元年12月 小学校統合研究委員会の設置 ⇒統合に向けての課題を検討する。

(2)共通認識について

村は、学校あり方検討委員会の意見

- ① 小学校は統合すべきである。
- ② 統合する場合、小中一貫教育の検討を進める。

を尊重し、小学校を統合し、小中一貫教育を実践します。

理由としては、児童数の減少、学校施設の老朽化を見据え、川上村の将来を担う子どもたちの教育環境を整備するためです。

(3) 第1回委員会の主な質疑について

① 今後の子どもの人数の推移について

➡ 2つの小学校の児童数は、今後10年程度は微増もしくは横ばいの傾向です。

③ 各小学校の老朽化の状況について

➡ 第一小学校は築41年、第二小学校は築37年です。最近9年間に要した修繕費は2校で約1億2千万円になります。

④ グランドへの小学校庁舎の建設について

➡ 中学校を建設する際に補助金を活用していて、グラウンドとしての用途を変更すると、補助金適正化法に抵触し、2,000万円ほどの補助金を返還することとなり、余分な経費の支出が生じます。また、環境・景観・日当たりの観点からも適当ではないと言えます。

(4) 川上村が目指す小中一貫校について

資料4-1の通りです。

また、資料4-2のとおり、佐久穂町小学校・中学校の視察を報告。

○質疑応答

委員：小中一貫教育を目指していく中で、どういう小中一貫教育を目指すのか、そのことについては教育委員会・村等でどのように考えているか教えてください。

事務局中嶋：どういう理念の下で、どういう小学校を作るかといったこと今後検討していきたいと考えています。

教育長：あり方検討委員会のほうで、どうあるべきかについて具体的な意見も出ましたが、小中一貫教育というのは、それぞれ市町村によって特色が変わってきます。川上村としてどういう一貫教育ができるかというのは、学校現場と一緒に検討していかなければいけないと思っています。ある程度グランドデザイン的なものを作っていく必要があると認識しています。

委員：建物を建てるにしても、どういう小中一貫校を作っていくかはっきりしていないと、どの位置にどういった施設が必要かはっきりしないのではないのでしょうか。

事務局中嶋：今川上村で目指している小中一貫教育の施設面は、中学校に併設する形のもの望ましいと考えています。現在の第一小学校、第二小学校は非常に老朽化が進んでいて、また敷地の面積としましても、駐車場等の不足があり、現在のどちらかにある小学校に建て直すということは、非常に無理があると感じています。先生方・児童生徒の交流を考えましても、併設型の建設が望ましいと考えています。

委員：併設型ってということにして、それからまた考えて行くことであるなら、小学校・中学校の交流がスムーズにできるような形の校舎を作っていっていただきたいと思います。

事務局中嶋：どちらが先かという議論にもなるかと思いますが、スタンスとして、交流がしやすい併設型といった施設の下で、検討していきたいと考えています。

委員：今回、併設型で中学校の横に小学校を作ったとして、いずれ義務教育学校を作るとなったら繋げる必要があります。そうすると、併設で一体型の学校を建設したほうが次を考えやすくなると思うがいかがかでしょうか。

委員：学校のあり方検討委員会において、小中一貫校という方針は出ています。また繰り返すような話をここでまたしても、話は遅れていくばかりで、もう一度あり方検討委員会に戻るのかと思うわけですがいかがでしょうか。

また、小中一貫校と義務教育学校の違いは承知していますか。事務局はどういう風にとらえているか説明をお願いします。

事務局中嶋：あり方検討委員会の中でも議論されましたが、義務教育学校というのは小学校一年生から中学校までの9年間で1年生から9年生という形になります。また、小中両方の教員免許を持った先生の配置が必要になるといったところで、そういった方を県のほうから配置してもらうには厳しい状況になりますので、義務教育学校というのは難しいと考えます。また、一体型は佐久穂町がそうなりますが、佐久穂町は、小中学校一緒に建設したという中でそういう形をとっています。それと根羽村の義務教育学校は渡り廊下で繋いでいる状況です。今私たちが川上村で目指している併設型は、やはり交流をする上ではただ横に並んでいればそれで、良いのかといったところは違うと思いますので、施設を考えていく中では、両校を渡り廊下であるとかで繋いで、共有できる部分は使ってといったところを目指していきたいと思っております。

委員：今小中学校でも支援を必要とする子供たちがいると思いますが、義務教育の中で小中一貫校という形をとっていくときに、実際に支援を必要とする子供たちに対してどうなっていくのでしょうか。

教育長：小中一貫教育というのが前面に出ていますが、あり方検討委員会でもまずは小学校を統合するというのが最も基本的な考え方になります。その上で小学校を統合するのであれば一貫教育をできるような環境を、という部分が確認された部分になります。

あくまで、こういうスタイルでも小学校は小学校ですので、一クラスの子供の数は増えますが支援をする子供については、今とまるっきり変わりません。例えば、特別支援学級には知障・自情障学級というのがありますが、そういったものについては、きちんと守られるので、特に何が後退するということはありません。

それから、あり方検討委員会の中で、専門家の先生をお招きして話を聞きながら、みんなですれならこういうものがないじゃないかと、いうことで意見をまとめたものが今回こうしてできた資料になっています。また、あり方検討委員会の委員は行政でもっと具体的な資料を出したほうがいいんじゃないかと、それで今回は行政で候補地案の提案をしながら皆さんに意見をいただきたいというのが今回の委員会の趣旨になります。

委員：この委員会は、小学校を統合するって話と、統合後の小学校をどうするって話と2ステップあると思います。総合後の小学校の中身について、小中義務教育学校・小中一貫校それともう一つ、そうしないでたまたま隣同士二つ小学校と中学校と置いたみたいな考え方もあると思いますが、それがそれぞれでどう違うのか、委員の皆さんの頭の中が整理されていないと思います。そこが整理されないとどれが良いのかよくわからない、ということになります。もちろん今まで論議し、その結果では、こういう論議がなされて、こういうメリットデメリットがあるという話で我々としては、ここを目指したいというのが共通認識なのか、そこから踏み込んで事務局としてはこうだということがあると思います。そういうところを整理していただいて、今後議論していければと思います。

事務局中嶋：改めまして先ほどの共通認識という中でいうと、一番は児童数が減っていると

いったところで、子供たちの教育を考える、そういったところで統合しようと統合を推進しようといったところが第一歩です。また、二つの小学校とも老朽化が激しくプールが使えない、トイレの大きな修繕が必要、そういった論点から建て替えを考える中で、小学校を統合したほうが良いといった議論によって決定されたと聞いています。そうした中で、統合するにあたって小中一貫教育を考えたらどうかといったところが実際の筋道であるかと思えます。ですので、村としては、現時点において義務教育学校というのは難しいといった中で、小中一貫教育の中の義務教育学校というのは選択肢の中から外したいと外して考えたい思っております。形態と言いますか施設面で言いますと、一体型か併設型かという形になりますが、一体型というのは既存の中学校の改築等を行うの難しい、そういったところで施設を併設・隣接する形で作るといった方向が村としては一番ベストであろうと考えております。

いちばんは今言った統合をするとそうした中で小中一貫を考えるという筋道のなかで、いろいろなご意見をいただきたいと思っております。

委員長：現在村のほうで村民に対しましてアンケートを配布しております。締め切りが5月中となっておりますが、約1,300世帯に2通配布しまして、現在150の回答があった中の意見で、「早く統合して学力アップを望む」・「統合についてはもっと早い時期に検討すべきであった」・「早期実現に向けて頑張ってください」・「早期実現をお願いします」・「よりよい教育ができるための実現をお願いします」など賛成の意見が数多くありました。中には、「慌てることはないじっくりと検討してもらいたい」という意見もありますが、アンケートも6月にならないと最終的な統計は出ませんが、今のところそのような意見が相当あります。

委員：用地候補地ですが、中学校は昔2クラスあって、おそらく一学年2教室という形かと思えます。今後子供も人口も減って行く中で、これだけ大きなものを作る必要があるのか、例えば中学校に教室が余っているのであれば、例えば、今の中学校の空いている教室を活用して小学校として利用して中学校を建てる。そうであればそんなに大きいのはいらないと思えますし、人口減・税収等を考えても、大きいのを作りすぎて維持も大変になるのではないかと、後の世代の子供たちにつけを回すようなことはどうなのかなと思えます。

統合自体素晴らしいことだと思うんですけど、補助金ありきでなくなるべくお金をかけないで、作るような形を検討していただきたいと思えます。この規模が20年後に必要なのかこの規模の校舎を維持していけるのか、人口が減って行く中で、というのはどのように考えられているのでしょうか。

事務局中嶋：当然考えていく中で合理的に考えるのは当然だと思います。当然無駄を省いて建設費も補助金があるからいくらかでもというような学校を作るつもりもありません。当然先を見据えることも大事ですし、逆に言うと子供が少なくなることを想定した、そういった施設を検討していくのは当然でありますので、検討を行っていきたく思います。

それとただ単に、人口が減って行くということを見逃していただくだけではなく、学校との施設の建設に加えて、子供を安心して生みたいとか、人口を維持するとか、そういった面の施策も考えて一人でも二人でも子供・人口を増やすということを並行してやっていきたいと考えています。

事務局藤原英：今の論議の中で、追加でお話しさせていただきます。まず、最初は、学校のあり方検討委員会から論議がスタートしました。その中で何回も論議を重ねて出た結果が、小学校を統合すべきだという結論、もう一つが統合する場合小中一貫教育の検討を進める、という結果になりました。村はそれを尊重して小学校を統合し小中一貫教育を実践するという方針を出したわけであります。その中でその次のステップとして、どこに小学校統合の場所を建てるかという中で、後で説明ありますけれども今の中で理想の場所は中学生の横であると、用地的な理由を含めてですけれど、そうすると現状ある中学校の横に建てるので、学校の形は併設型という表現になります。

佐久穂町の小中一貫というのは全く何もない場所に小学校と中学校を建て、一体型小中学校という形になっています。したがって、併設とした場合、一番子供たちの教育に有益なやりやすい形を考えますと、可能であれば小学校と中学校を渡り廊下などで繋いで、共有できる部分は共有し、教育上必ず別々にしなければならないスペースや寸法高さそういうものは必ずできますが、佐久穂みたいに体育するうえで、プールやグラウンド・体育館が別々に必要になるとか、そういう論議になってきます。

前回の会議でも出ましたけれど、中学校の空いている教室があるんじゃないかと、そういう意見も出ています。ですが現状は、中学校の教室は決して遊ばせているわけではなくて、小規模学習教室に使ってますし、今回のコロナ対策の時には、生徒の間隔が2メートル空くような広いスペースが必要だと改めて認識しましたし、決してそういう場所が現状余分なスペースというわけではありません。そういった認識を踏まえて併設型にするにはどの場所でいいなどの形にしていこうかなと進めていってもらえるような会議になっていければと思っています。

併設型にするには、委員の皆さんに論議していただきますけれど、決して贅沢なものを作ろうとするつもりは村のほうではありません。もちろん必要最低限のものは作らなければいけませんけれど、例えば一例として木造をやめましょうとか維持管理のコストが少ないものにしましょうとかそういったものは村も考えていきますし、皆さんにも考えていただければというところです。

委員：次のステップに進むためにも一言お話ししたいと思います。この進め方については特に異議はないんですけれど、地域の人に話を聞くと、まだこの統合について納得がいかない、上地区から学校がなくなるについてまだちょっと納得できていないという方もお話しすると中にはいらっしゃいました。その方たちは子供が学校に行ってなくて、アンケート調査にも参加できなかったし、住民説明会にも参加できない中で、蚊帳の外にいながら自分たちが見守ってきた学校がなくなるということに対して、すごく抵抗感がまだ残っているような気がします。そういう方がまだいるということを事務局も承知していると思いますが、早く統合を進めて校舎を建ててほしいというアンケートの報告も先ほどありましたけども、中にはそういう方もいるということを知っていただいて、もっとそういう方に向けた丁寧な説明も必要なんじゃないかと思っています。

委員長：いろいろな意見があろうかと思いますが、私は先程村長のほうから、ある程度スピーディーな対応が必要じゃないかと、いうことに賛成です。一年遅ければまた新たな問題・課題が出ると思います。考えれば考えるほどこれは前に進んでいかないと思っています。本日は先程候補地を決定したいと申しましたが、それについて皆さんの意見をお聞きした

いと思います。

それでは、(5)について説明をお願いします。

(5) 統合小学校の候補地（案）について

事務局藤原将：併設型小中一貫校とした場合、中学校の隣接地が最も適していると考えられます。

案①の場合は、予定地に多くの河川敷（国有地）があり、払下げに時間を要する可能性があります。また、中学校敷地の高さより1m程度低く盛り土を要します。

中学校のランチルーム含めた西側部分を小中学校の接点として校舎を配置すると、児童生徒や教員の動線がスムーズになります。

案②の場合は、農業施設の移転が生じます。中学校の柔剣道場・プール・体育館を挟む形状で小学校を建設することになりますので、校舎の接続が難しく、児童生徒や教員の動線が屋外を経由することになりスムーズでなくなります。

事務局中嶋：少し捕捉しますが、この二案を出させさせていただいた理由ですが、以前のあり方検討委員会でのご意見の中で統合は賛成だが、どちらかの小学校に新しい小学校を建てるのはどうか、というご意見が多々ありました。それと、今の両方の小学校とも18,000㎡ほどの敷地面積です。ただ保護者の方等にご承知のとおり現状でも駐車場等が少なく、敷地としても十分でない中で新たに小学校を建設するのはいかがなものかということで、中学校の隣接地を検討した次第です。

それに加え、小中一貫教育を目指すといったところで中学校の隣接地を候補地として示させていただいたところです。それとある程度行政主導の中でこういった提案をさせていただいてご検討いただいたほうがよろしいかと思ひましてのお願いになります。

委員長：いろいろな質問が出た中で、候補地の選定の説明をしてもらいまして、皆さん先ほどから初めての人もいたり、混乱したりしてるかなと思っておりますが、ぜひ前に進むためにも今日は、候補地の選定までしたいと思ひますのでご意見等ありましたらよろしくお願ひします。

委員：前提条件の確認ですが、小中一貫校の併設型小中学校を目指す、ということで今まで論議がされてきたと思ひますが、この敷地はこれを前提ということですよ。そうだとしたときに、新しい敷地に何をやるか、何をどこまでやるか説明がないと、要するにフル装備で今の小中学校を合わせた統合小中学校を作ります、じゃあ統合小学校の規模は一体どれくらいのものを作るかというのが説明で見えませんでした。

事務局中嶋：実際には施設として、校舎・体育館・プールをどういった規模で作るかというところであると思ひます。これにつきましては現時点の考え方は、敷地が決定した中で、業者委託をしまして、いわゆるレイアウト的なもの、それと今の中学校の施設内を検討しまして、小学校の施設として利用できるもの、こういったものを検討して規模を決めたいなど思ひています。

資料の案①・案②の赤枠というのは、大きく必要以上に見ています。この中でどのようにレイアウトするかですが、現在の中学校の施設から考えますと、子供たちの交流であるとか職員間の交流であるとかそういったことを考えますと案②よりも案①のほうが、施設として充実したものが作れるかなと思ひています。下のデメリットのほうにも書いてありま

すけれど案②に小学校を建設したとすると柔剣道場・プール・体育館に小学校が隣接する形になり、子供だとか先生と同線が非常に取りづらいつと考えは事務局として持っています。この二つ案の中で、予定地を決定してもらったとすればそのあとに施設の概要のイメージとかそういうものを作成して、委員の皆さんにご提示したいなと考えています。

委員：二案示されているわけですが、どう見ても案①で行くしかないと思います。

委員：今のメインの校舎を隣接して作って行って校舎を一体的に使うとすれば案①、案②はどちらかといえば体育館ですとか音楽堂、柔剣道場やプールを共有して使うとすればその間にあるから使いやすい、そういうイメージ使い方という感じなんですかね。より一体的に、今まで委員の皆さんから意見が出ているのを生かすとすれば案①のほうが優れているというのは私もそう思います。

委員：ランチルームがこの案①と隣接します。それから入ったところに、エイリアンがあり、バス停になりますので、そこから中学校と小学校に分かれる同線を考えるとやはり案①になると思います。

川上村では村費講師を本当にご支援していただいて大変助かっております。それで全然違う話をさせていただきたいんですけど、中学校というのは教職員配当基準というのがあります。川上中学校は通常クラスが3の特別支援が2ということですので、専科が3人つまり配当者は8人です。でも教科は10あるんです。そうすると先生が2人足りないです。その1人は県から配属いただいています。もう1人はどうしているかという、南牧中学校と兼務してお互いで融通しあって教員が何とか10名で何とか達している形になっています。例えば小中一貫となれば音楽の先生が中学にいた者が小学校でも教える、ということも考えれば、中学の音楽と小学校の音楽と一緒に交流できる、そうすると一緒に音楽会ができる、そうすると自然の交流ができる小中一貫教育ができていくと思います。そういうことを考えると中学と小学校ができるだけ密接にかかわれそうな配置ということを見るとやはり案①になるのかなと思います。

委員：小中学校一貫教育とてもいいんですが、例えば小学校は45分授業、中学校は50分授業で、ある程度小学校は小学校で中学校は中学校でやることも必要です。小中一貫教育とても大切ですけど各学校の独自性もとても大切と知っていただければと思います。私も案①の隣接しているのがいいと思います。

委員：先ほどから出ているように、中学校の校長先生も言われましたけれど、小中一貫で共有できる場所を考えると、併設している一番近いところにランチルームと二階に図書館がありますよね、そういうところが共有して使えるんじゃないかと思いますので、そちらのほうに隣接して例えば渡り廊下でつなげるようにということを見ると案①のほうになると思います。音楽室は、あの音楽堂がありますので、そこも使えればんじゃないかと思います。

委員：デメリットに村道の付け替えが必要とありますが、これは簡単にできるんでしょうか。

事務局中嶋：例えば案①のほうに調理場とランチルームの横に村道があると思います。村道自体は、村の所有物なのでできないことはないんですけど、それを利用されている方が当然います。畑の利用者の方もいますし、川沿いのほうには住宅もありますので、そういった方の利用されている方のご意見をなしにして勝手に付け替えるつもりはありません。

ただもしそうなれば、施設の形態によってはご協力お願いしていくつもりです。

委員：道があるとなかなか渡り廊下というわけにいかないと思いますので、ぜひ付け替えのほうを進めていただきたいと思います。

委員長：今日は候補地選定ということで、選定できたとしてもあくまで仮ということであり、これを村に委員会としての意見として出していくということになろうかと思えます。候補地の選定ということで皆さんもう少し意見ありましたらお願いします。

委員：デメリットのところに国土交通省の土地が存在とありますが、これについての学校用地としての使用するの、スムーズに許可が下りるものでしょうか。

事務局中嶋：払い下げの際は、国に払い下げをしてもらって申請をしなければいけないこととなります。実際に佐久の建設事務所のほうと協議をして国のほうに上げていくという形になろうかと思えますけど、払い下げとなると金額的なこともありますけれど、それ以上に事務手続き的にどれくらいかかるかというのが、ほかの事例を見ると結構年数を要する場合がありますが、そういったところはぜひお願いに行きまして見通しがついた時点で、例えば並行してまだ払い下げにはならないけれど、設計の業務は進めさせてくださいとか、そういったお願いはしていかないと、この土地の払い下げを待って、設計をして建設をしてとなると、たぶんより一層年数がかかってしまうことは承知してしますので、その辺時間的に読めないんですけど、そういった心づもりで行いたいと思っています。

委員長：候補地については、案①が圧倒的に多いわけですが、ここで委員会としての結論として、決定してもよろしいでしょうか。意見がありましたらよろしくお願いします。

委員：案①のほうで中学校敷地とレベルの高さが違うとあるんですけど、それはそのままでも大丈夫なのか、土を入れてというとならば費用が掛かってしまうと思うんですけど、そこについてどうなりますか。

事務局：案①の部分の畑ですけど、中学校の敷地より現状だいたい1 mくらい低いと思います。ですので、このままでも建てられないことはないんですけど、ご承知の通り川の堤防に近いといったところで去年も台風の際には、中学校の体育館等には避難されています。川上村はどこをとっても川沿いの集落ですので安全な所は少ないんですけど、少しでもそういった危険を回避するというので、出来れば盤を上げ校舎・グランド等を整備したいと思っています。

委員：最近地震が多い中で、南海トラフ地震も想定される中で、案①や案②でも地盤については大丈夫なんでしょうか。

事務局：ボーリング調査をするつもりでいます。そうでないと建物の強度も選べませんので、実際今回予定している庁舎につきましても、建設予定地はボーリング調査を行う予定です。そういったことは十分踏まえて行いたいと思っています。

委員長：ほかに何かありますか。ないようですので、ここで候補地につきまして、第一案のほうで決定したいと思いますけど、どうでしょうか。

委員：どのように意思表示したらよろしいでしょうか。

委員長：反対がなければそれが意思表示になります。多数決をとることもしません。先ほどもいいましたが、これで決定ではありません。仮です。村へ委員会としての意見として上げるということになります。

委員：今のように災害のことを考えなければいけませんので、発言させていただきますと、川上中

学校から県道へ行くところへ段丘ありますよね、あれは河岸段丘です。つまり、千曲川が削って、最初の段丘面のところに建つということです。そうなるとやはり先ほどのように災害の時の土砂災害が一つの心配になります。その辺のアセスメントを十分したうえで、案①に賛成したいと思います。

事務局中嶋：先ごろ、県のほうでも1000年に一度のハザードマップが出たかと思います。それによりますとこの区域は、50 cmから3 mというような想定もされています。ですが、今の中学校より前の時は、先人の方に聞きますとここに氾濫で土砂があったということも歴史としてあるようですので、そういった部分を踏まえて、設計の中に盛り込みたいと思います。

委員長：ほかに意見がないようですので、当委員会としては候補地を案①に決定でお願いします。次に(6)の今後のスケジュールについてお願いいたします。

(6)今後のスケジュールについて

事務局藤原：今後、川上村小学校統合研究委員会において①から⑦に記載の各項目等について、協議していきたいと考えています。そして今年中に、「川上村統合小学校基本構想(案)」の作成までを予定しています。

その後、仮の名前ですが建設検討委員会を発足し、(1)からの施設整備を進める予定です。候補地(案)は、いずれにしても国土交通省所有の土地が存在しています。(3)に記載とおり、これらの土地は河川敷ですので、現状では地番のない土地となっています。ですので、これから国や佐久建設事務所等に依頼する中では、早期に土地の確定測量を実施していただき、地番を起こしてもらったうえで、村への払い下げ手続きを進めるということになります。これは村の事務ではなく、県の事務進捗や予算確保の問題もからんできますので、現時点では多少長い期間設定となっていますのでご承知ください。また、このことについては、事前の確認として、既に建設事務所と協議を進めています。

更に、(4)からになりますが、設計に約1年半、建物の工事に約1年半、合わせて3年間。非常に長い期間ですが、事業を進めるうえでは必ず必要な期間となりますので、ご理解をお願いしたいと思います。また、これはあくまで概算スケジュールですので、調査、研究等はできる限り前倒しのうえ、早期の事業実施を目指しますのでよろしくお願い致します。

以上です。

事務局中嶋：捕捉になりますが、河川敷ばかりでは当然ありません。委員長が仮の決定という言い方をしているのは、ご協力していただく地権者の方がいますので、そちらに丁寧に説明させていただいて、ご理解をいただければ、建設地という風にはなりません。その辺はご承知おきください。

それと今スケジュールの中で、設計から工事の期間というのは、短縮はできないと思います。それだけの設計や工事の期間は必然的にかかります。ですので、スピード感を持って実施するとなるともっと上の部分、要は検討する部分をなるべく短縮して、早い竣工を目指したいと思っております。

○質疑応答ーなし

5 その他

事務局中嶋：今後の委員会としての予定ですが、今決定していただいた案①に基づきまして事務を進めていきたいと思っておりますが、途中の説明でもしました通り今の実際の小学校であるとか、中学校の施設であるとか、実際目で見ていただいたほうが、私どもとしましてもご納得いただけるかなという部分がありますので、出来ればですが、6月に予定はしております。ただコロナの関係で学校側としましてもようやく、来週再来週から通常授業に戻すということで、また余分な負担をかけてはいけないと思っておりますので、そのあたりは相談させていただいて、改めてご通知したいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○質疑応答

委員：これで、案①で事業進めていくにあたって、用地買収とかいろいろあると思うんですけど、以前の事業で、区と本人それから村の連携が全然できてなくて、かなり悔しい思いをしました。関係機関とお話をいただくなど、そういうところも村のほうにはケアしていつてもらいたいと思ひます。

委員長：以前のことも教えていただきながら、関係機関と連絡を取りながら、ことを進めていきたいと思ひます。

村長：我々も考えているのは、大きなものはいらぬ、シンプルでランニングコストのかからない、やはり100年スパンで物事を考えていかなければいけないと思ひます。人口減少を村としましても歯止めをかけようと試行錯誤しています。とにかく現在の人口を維持していくように頑張つて、小学校の子供たちのにぎやかな姿をいつも見れるように、そんな教育環境を作っていくつもりであります。これからもよろしくご指導またご理解のほどお願ひ申し上げます。大変ありがとうございました。

委員長：それではこれを持ちまして第2回川上村小学校統合研究委員会を閉じたいと思ひます。委員のみなさんにおかれましては、各地区で会合等あつた際には、周知等していただき、何かご意見ありましたら事務局のほうへお願ひしたいと思ひます。また長野の小林委員に置かれましても大変お忙しい中貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひいたします。それでは閉会といたしますお疲れ様でした。